

Ⅰ これまでの主な成果

農 業

- 農業産出額の増加 **米以外は過去30年で最大**
 - ・H25：1,716億円（うち米以外704億円）→ R5：1,779億円（841億円）
- 園芸・畜産の大規模生産拠点
 - ・園芸 R6：56団地、・畜産 R6：54団地
- 全国に名を馳せる産地づくり
 - ・えだまめ日本一（5年連続2位）・ねぎ日本一（6年連続2位）
 - ・しいたけ三冠王（6年連続）
- 新規就農者の増加
 - ・H25：207人→R5：275人 **11年連続200人以上確保**
- ほ場整備の進展
 - ・水田整備率 H25：66.5% → R6：73.3%

林業・木材産業

- 素材生産量の増加
 - ・H25：1,106千m³/年 → R5：1,443千m³/年
- 再造林面積
 - ・H25：292ha/年 → R6：735ha/年 **再造林率50%達成**
- 新規林業就業者の増加
 - ・H25：142人 → R5：149人 **12年連続東北1位**

水産業

- 漁業者1人当たりの生産額の増加
 - ・H25：3,142千円/人 → R5：4,648千円/人
- 蓄養殖ビジネスの創出
 - ・サーモン（岩館、椿）、クルマエビ（五里合）

Ⅱ 時代の潮流・農林漁業をとりまく課題

時代の潮流

- 食料生産・供給の不安定化
 - ・世界人口の急速な増加、国際紛争のリスクの高まり
 - ・温暖化による自然災害の頻発化・激甚化、家畜伝染病のリスク増
- 市場をとりまく情勢の変化
 - ・人口減少に伴う国内市場の縮小や食の外部化の進展
 - ・経済のグローバル化の進展による国外市場の拡大
- 価値観や行動様式の変化
 - ・SDGsに対する取組の広がり
 - ・田園回帰や移住への関心の高まり
- テクノロジーの進化
 - ・ロボットやAI、IoTを活用した技術開発の進展

農林漁業の課題

- ・農林漁業者の高齢化・後継者不足の進行と担い手の大幅な減少
- ・肥料、農薬、燃料などの生産資材や飼料価格の高騰
- ・人手不足による人件費の上昇や物流コストの増加
- ・農山漁村の人口減少による集落機能の低下
- ・荒廃農地の増加や野生鳥獣による農作物被害の拡大

マーケティングにより成果追求型の施策を展開
（ターゲット分析、ニーズの把握、最適なツールの選択）

目指す姿

- ◆日本の食料安全保障に貢献する食の国あきた
 - ◆農林漁業者が夢と誇りを持てるサステナブルな農林水産業
- 日本の食をリードする、次世代の農林水産業の展開**

次期総合計画（農林水産分野）の方向性②

1 日本の食を支える農業の実現

視点1 産地を支える担い手の確保・育成

- 新規就農者の確保と定着促進
- 農地の集積・集約化の促進
- 企業の経営体の育成
- 農業サービス事業体の創出
- 多様な人材の活用（シニア、外国人）
- 円滑な経営継承の推進

視点2 飛躍的な生産性の向上と持続可能な農業生産の推進

- スマート技術の導入促進
- 水田の大区画化と汎用化の推進
- 有機農業等の推進
- 温暖化対応技術の普及

視点3 効率的で収益性の高い複合型生産構造の確立

- 土地利用型野菜の生産拡大
- 企業と連携した産地づくり（誘致含）
- 野菜の単収・品質の向上
- 秋田牛・比内地鶏の生産拡大
- 耕畜連携の横展開
- 家畜防疫体制の強化

視点4 需要に応じた米生産と水田のフル活用

- 米の増産と輸出拡大
- 超省力・低コスト生産の推進
- 大豆・そばの単収・品質向上
- 飼料用とうもろこし等の生産拡大

視点5 農畜産物のブランド化と国内外への販路拡大

- オール秋田での輸出拡大
- 食の外部化・簡便化への対応
- 効果的な販売促進の実施
- 異業種連携による6次化の促進

3 環境変化に対応した新たな水産業の実現

視点1 漁業を支える人材の確保・育成

- 新規就業者の確保
- 技術継承の円滑化

視点2 新たな漁業へのチャレンジ

- 新たな魚種・漁法への転換
- スマート技術の導入促進
- 新魚種・未利用魚の利活用促進

視点3 つくり育てる漁業の推進

- 種苗生産・放流の実施
- 蓄養殖ビジネスの拡大
- 害敵駆除等の推進（内水面）
- 漁港・漁場の整備

2 森の恵みを未来へつなぐ林業・木材産業の実現

視点1 林業を支える人材の確保・育成

- 即戦力となる人材の育成
- 新規就業者の確保
- 女性・若者の就業促進
- 魅力的な就労環境づくり

視点2 再造林の更なる促進

- 林業経営体への造林地集積
- 造林・保育へのスマート技術導入
- スギエリートツリーの普及
- 優良種苗の安定供給体制の構築

視点3 生産・供給体制の強化と県産材の販路拡大

- 高性能林業機械の導入促進
- 効率的な路網整備
- ICTによる生産管理の導入促進
- 木材加工流通体制の強化
- 建築物の木造・木質化の推進
- 県産材の輸出促進

視点4 森林の有する多面的機能の維持・発揮

- 全国育樹祭の開催
- オール秋田での森づくりの推進
- 景観保全の推進
- 効率的な森林病虫害対策

4 地域資源を活用した農山漁村の活性化

視点1 地域の特性を生かした多様な農業の推進

- 地域特産作物の生産振興
- 地域資源を活用したなりわい創出
- 交流人口・関係人口の創出
- 農村RMOの推進

視点2 環境対策につながる投資の拡大

- 温室効果ガス排出削減対策
- カーボン・クレジットの取組拡大

視点3 里地里山の保全と鳥獣被害対策の推進

- 共同活動組織の連携・合併
- 粗放的農地利用の推進
- 鳥獣被害対策の強化

視点4 防災・減災と施設の長寿命化の推進

- ため池等の防災・減災対策
- 流域治水の推進（田んぼダム、森林整備）
- 施設の計画的な修繕・更新（水利施設、漁港海岸、治山施設）